

2025年度卒業・修了 留学生の就職率等

卒業・修了者数 (A)	就職希望者数 (B)	就職者数 (C)	その他	就職率 (%) (C) ÷ (B)
5	5	5	0	100%

※2025年度卒業・修了者（学部・大学院の合計）の就職率等を掲載しています。

※学部・大学院の正規生であり、在留資格「留学」のみを掲載しています。

※日本国内での就職者のみを掲載しています。

※その他では、日本国内での進学、起業、母国への帰国・他国への留学等の人数を示しています。

※外国人学生を対象にした就職アンケートにおいて、日本国内での就職者を把握し、

希望者にメールによる情報提供を行っています。

※就職先は以下のとおりです。

株式会社ゼロ

株式会社ダンガロイ

産経ヒューマンラーニング株式会社

Star homes株式会社

doTERRA CPTG Essential Oils Japan 合同会社

氏名（イニシャル）：L.T（2026 年 3 月卒業）

出身国：中国

内定先業種：輸送サービス業

就職活動は思っていた以上に時間がかかり、体力も気力も必要なものでした。日本では就活のスタート時期が年々早くなっていて、周りがどんどん動き出す中で、私も「早めに」準備を始めなければならないと感じました。最初は何から手をつければいいのか分からず、とにかく説明会に参加したり、就活サイトを見たりして、たくさんの情報を集めていました。

しかし、情報を集めれば集めるほど、逆に混乱してしまうことに気づきました。企業の数も多く、それぞれ魅力的に見えてしまい、自分が本当に何をしたいのか分からなくなってしまったのです。そのときに、「ただ情報を集めるだけでは意味がない」と感じ、自分なりの基準を持つことの大切さを実感しました。そこで、自分が将来どんな仕事に関わりたのか、どんな環境で働きたいのかを考え直し、必要な情報だけを選ぶように意識しました。

私は外国人留学生として日本で就職活動をしていたため、言葉や文化の違いに戸惑うことも多くありました。しかし、企業側が求職者を見る際に、国籍など一切配慮せずに判断していたと見えました。留学生にとっては、この点が不利になると感じます。理由は、企業研究をすると、日本特有の表現や業界用語がたくさん出てきて、理解するのに時間がかかるからです。そのため、一つ一つを「慎重に」調べながら進めるようにしました。エントリーシートを書くときも、正しい日本語を使うだけでなく、「自分の考えがきちんと伝わるか」を何度も見直しました。

また、私はこの就職活動という経験を「大事に」と思うようになりました。結果だけにとらわれるのではなく、この過程で自分自身をよく知ることができると感じたからです。面接や自己分析を通して、自分の強みや弱み、価値観について深く考える機会になりました。うまくいかないこともありましたが、そのたびに自分を見つめ直し、少しずつ前に進むことができました。

この経験から、就職活動はただ内定をもらうためのものではなく、自分の将来について真剣に考える大切な時間だと感じました。早まるスケジュールの中でも焦らず、情報をしっかり見極め、「慎重に」進めながら、この経験を「大事に」してきたことが、私にとって大きな学びになりました。

氏名（イニシャル）：D・H・D（2026年3月卒業）

出身国：ブラジル

内定先業種：教育・学習支援業

私はブラジルで英語教師としてのキャリアを積んできましたが、日本への留学を機に、この国で教育経験を活かしたいと考えるようになりました。修士課程入学当初は、公立学校でのALT（外国語指導助手）として、日本の児童・生徒に英語を教えることを第一の目標としていました。しかし、就職活動を進める中で、大きな壁に直面しました。多くの自治体や公募条件において、「12年以上の英語による教育を受けていること」という要件があることを知ったのです。ブラジルの母国語はポルトガル語であり、この条件を満たすことは非常に困難でした。

一時は目標を見失いかけていましたが、ここで諦めるのではなく、自分の修士号（MA）と専門性をより高く評価してもらえる道はないかと、視野を広げることにしました。具体的には、大学での非常勤講師や私立学校での教員職を視野に入れ、自身の研究実績を生かす方向性に切り替えました。大学等の高等教育機関で働くためには、実務経験だけでなく、研究者としての実績も問われます。そのため、修士論文の執筆に心血を注ぐことはもちろん、学会発表にも積極的に挑戦しました。また、情報収集においては「JREC-IN（研究者人材データベース）」を活用し、先生方にも積極的に相談しました。

教育業界、特に大学等の公募は一般企業よりも遅く、11月から12月にかけて募集がピークを迎える傾向があります。周りの友人が内定を得ていく中で焦る時期もありましたが、自分を信じて準備を続けたことが、最終的に納得のいく結果に繋がりました。日本の就活活動のプロセスは非常に細かく、自己分析を深める良い機会になります。私にとって、このプロセスは「なぜ日本で教えたいのか」を再考する機会となり、文化や言語の壁を乗り越えて日本で貢献したいという覚悟を固めることができました。

留学生にとって、条件の壁や文化の違いは避けられない課題です。しかし、その壁に突き当たった時こそ、自分の専門性を見つめ直し、新しい道を切り拓くチャンスだと考えてください。皆さんのこれまでの努力と個性を信じて、挑戦を続けてほしいと願っています。